

h30製図課題に関する所見と予測課題アップ日

【平成30年度の設計製図課題】

健康づくりのためのスポーツ施設

要求図書:配置図(縮尺1/200)、地下1階平面図、1階平面図、2階平面図(縮尺各1/200)、断面図(縮尺1/200)、面積表、計画の要点等

(注1)健康増進のためのエクササイズ等を行う温水プールのある建築物の計画

(注2)パッシブデザインを積極的に取り入れた建築物の計画

(注3)建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置及び防火設備等の適切な計画

防火区画(面積区画、堅穴区画)等の適切な計画

避難施設(直通階段の設置・直通階段に至る歩行距離、歩行経路及び重複区間の長さ、敷地内の避難上必要な通路)等の適切な計画

【所見】

本課題から読み取れることは、「健康づくりのスポーツ施設」の建物であるということである。この**スポーツ施設**は、「エクササイズ等」や「温水プール」での健康づくりを想定していることから、「**フィットネスクラブ**」と想定できる。昨年の課題「小規模リゾートホテル」は、2020年の東京オリンピックなどを踏まえた、観光等に対する宿泊施設をどのようにすべきかの社会的課題を反映させたものであるが、今年も同様に2年後に控えたオリンピックを念頭に、国民のスポーツに対する注目と共に、自身の健康増進を図る高まりを捉えた課題と言える。

要求図書は、近年パターン化した平面図が1階、2階、3階の3面である。平面3面は、かなり時間が取られるので、事前に十分なプラン構成を検討して、試験当日は、課題と自分の想定プランとの違いを補てんするようなエスキスを実施することが望ましい。研究会では、17:00から「**見直し30分**」をしないと、合格するのは厳しいと判断している(ミスは10個はある、ランクⅠとⅡの可否激戦区では小さなミス1点を修正した人が合格へ飛び込む)。

本課題では、注記事項が3つある。研究会では、毎年、この注意事項は別途資料として取りまとめる。以下に、各注意事項の所見と取りまとめの概要を示す。

(注1)健康増進のためのエクササイズ等を行う温水プールのある建築物の計画

本課題で最も大きな要求室となる温水プールの計画は、可否を左右する要因となる。温水プールの基本的な平面計画、天井高さ等を考慮した断面計画及び更衣室からプールへの動線計画などを取りまとめる。また、温水プールに関する設備計画(温水プール用の設備と共に床暖房が必要)も重要となるので、機械室等も含め取りまとめる。

(注2)パッシブデザインを積極的に取り入れた建築物の計画

H28、H29に引き続きパッシブデザインが出題された。パッシブデザインは、機械的な要素(アクティブデザイン)を取り入れないで、**自然通風**や**自然採光**を積極的に取り入れた自然エネルギーや省エネルギーに配慮した建築物を計画することである。近年の標準解答例では、断面図に自然採光や自然通風などを取り入れたものとなっている。昨年、H28、H29の解答参考図も参考にしながら、各種資料を取りまとめる。

(注3)建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置及び防火設備等の適切な計画

防火区画(面積区画、堅穴区画)等の適切な計画

避難施設(直通階段の設置・直通階段に至る歩行距離、歩行経路及び重複区間の長さ、敷地内の避難上必要な通路)等の適切な計画

ここは建築基準法の「防火規定」と「避難規定」に関する基本事項である。課題に対する防火区画と共に、防火設備について取りまとめる。また、避難施設としての直通階段、歩行距離、重複距離、避難通路等の適切な計画について取りまとめる。

【研究会の予測課題と掲載日】

研究会の予測課題は、昨年と同様に**3予測課題**に絞り込む。

各資格学校は、毎週、様々なパターンの予測課題を作図させるという学習手法を取っている(A社とB社の全予測課題は「H26年度「温浴施設のある道の駅の比較表」参照)。資格学校の通学者からの意見として、毎週異なる課題があり「結局何がでるの?」という意見を頂いた。資格学校は、10パターン以上の予測課題を示すことで、どれかの予測課題は本試験に類似する(間違いなくどれかが的中し企業リスクが問われないが絞り込めない)。

研究会は、予測課題を3案に絞り込み、その3案が「**80%以上ズバリ的中する予測課題**」となることを最大の目標としている。これは、日々業務が忙しい方を対象に、こちらで絞り込みをしている。H28、H29は、この3予測課題が2年連続で80%以上ズバリ的中した(無料講座 8章「予測課題の検証」参照)。

1級建築士の製図試験の合格者は、約9割の方が資格学校に通学している。各資格学校ともに、ほぼ同じ程度の合格率(製図合格率は40%だが通学者は約50%)であり、通学しても2人に1人は落ちてしまう現状がある。某資格学校は、占有率が高い広告をしているが、通学者が国内最大であり、合格率と占有率は異なる。また、資格学校は、全員に平等に指導せざるを得ない一面があり、隣の人に勝つには、結局自分で隣の人より何らかの努力をしないと勝てない(合格できない)。

※2年連続(H28・H29)で予測課題**80%以上ズバリ的中した。**

⇒忙しい方、独学者、通学者の皆様、ぜひ研究会の資料も参考に合格を勝ち取って下さい。